

～親子で平和を考える～

子どもまつり

時：10月18日(日)午後1時～

場所：神戸市立港島小学校 体育館

<ポートライナー「市民病院前駅」東へ400M>

「平和って何?」

「戦争は本当にあったの?」

戦後50年、戦争を知らない親子が
一緒に平和を考える集会です。

「子どもまつり」は、全国から寄せられた
被災地への義援金により団体、個人が賛助
運営されています。

12:30 開場

1:00 開演 **みんなで歌おう!**

(出演：メシアとボン四郎)

保護者のみなさま

10月24日(土)10時～
於：港島小学校(入場無料)

'98 神戸市教職員組合

記念講演 東 靖男氏

(東心理クリニック)

『子どもの心をとらえるには』
～その理解とかかわり方の処方箋

ぜひご参加下さい!

朗読劇「この子たちの夏」～母と子の被爆記録～

地人会上演台本より抜粋

(監演：劇団四紀会 堀 武史)

『この子たちの夏-1945・10月 加 絆』は
演劇制作体「地人会」の主宰者である、演出家
木村光一が多数の書物資料をもとに現実の被爆
体験の手記、詩歌を構成してひとつの「朗読劇」
という形に、まとめたものです。



主催：地人子育ネットワーク

海陽学園クラブ/港島小学校父母会/ポートピア保育園ピアッコ父母の会/全兵庫県兵庫支部ポートピア保育園分會
神戸子どもを守る会/灘輪一般兵庫支部/全港島兵庫支部/全神戸市教職員組合中央区支部・青年部
後援：神戸市教育委員会/港島自治連合協議会/港島仮設自治連合協議会

問い合わせ先
全神戸市教職員組合
(078) 391-7508

目次

- ・神戸空港・・・p1～3
- ・被災地は今・・・p4～5
- ・絆・地震防災と理科教育・・・p6～7
- ・お知らせ・「子どもまつり」・・・p8

データで見る被災地の現状

- ・仮設での孤独死・・・227人(8月末)
- ・仮設住宅居住世帯・・・9000 世帯
- ・仮設住宅居住者・・・15000 人

被災地だより

これ以上人災による犠牲者を出さないために
強力な絆を避難所になった神戸の学校現場から全国へ

絆



第7号

1998・9・17

全神戸市教職員組合「絆編集係」

神戸市中央区下山手通

4・13・9中尾ビル3F

TEL-078-391-7508

FAX-078-391-8549

〒振込口座番号 01170-7-29732

神戸空港が、

本当に震災復興につながるのでしょうか?

大事なことは、

みんなで決めよう!

住民投票実現へ



8月20日から始められた「神戸空港」建設の是非を問う住民投票の請求署名が、
スタートから市民の関心の高さを反映し、9月25日現在、**10万**名を超えたと
発表されました。署名運動が進む中で、被災地に、なぜ今「神戸空港」なのか?
疑問の声があがっています。

そこで、神戸市の計画している神戸空港の概要と、
その主な問題点を紹介します。



住民投票を請求する署名運動の中で問題点が鮮明に

神戸空港計画の概要

神戸空港は、地方公共団体(この場合は神戸市)が設置、管理する第3種空港
です。市の計画では、ポートアイランド2期の沖合約1キロの海域を約272haにわ
たって埋め立て、2500mの滑走路1本を有する空港島を建設します。

2004年10月開港を目指し、開港当初は年間340万人、2010年には年間42
0万人の利用を見込んでいます。建設費は総額3100億円、この内国の補助金は
250億円、残る2800億円の市の負担分については、起債(借金)でまかない、埋
め立てた土地を空港関連企業などに売却した利益で償還する計画となっています。

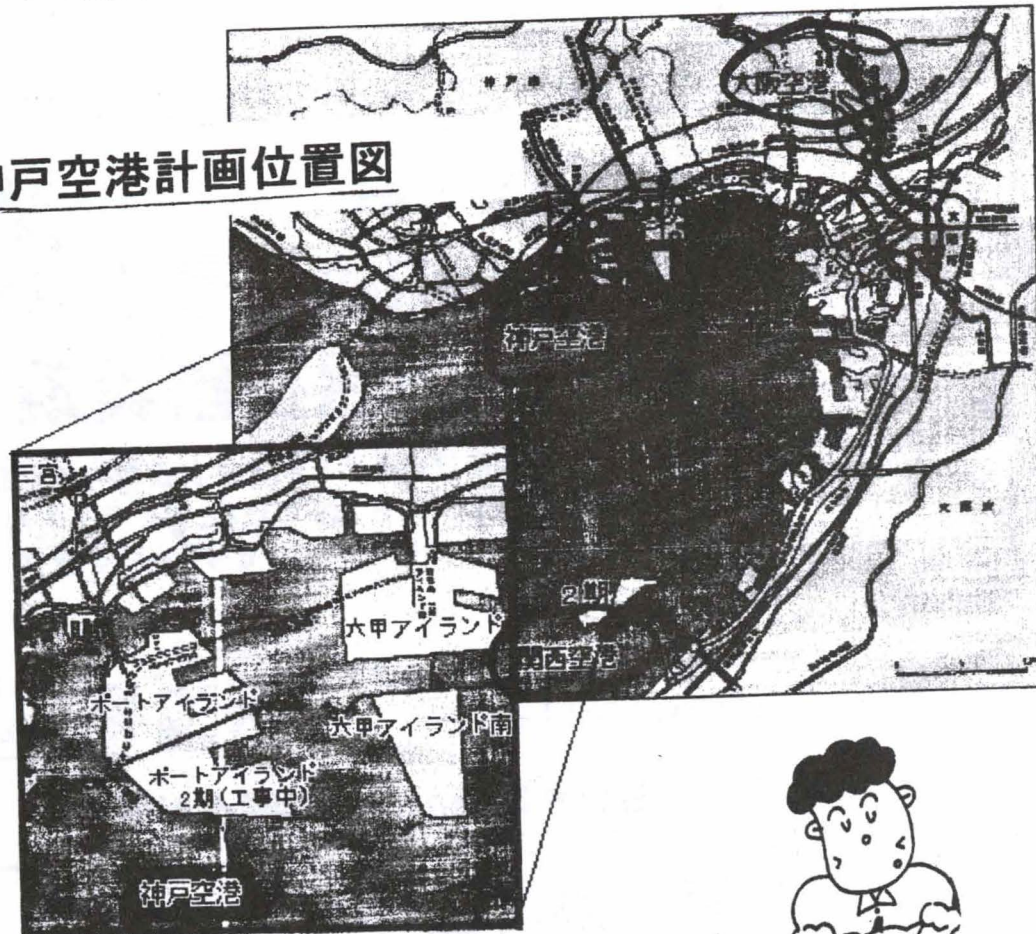
神戸市発行「神戸空港計画の概要」より



私たちの疑問

- Q1、神戸に空港は必要か？
- Q2、空港より被災者支援が先ではないでしょうか？
- Q3、空港建設は環境を破壊しないでしょうか？
- Q4、市の財政は大丈夫か、採算はとれるのでしょうか？
- Q5、需要予測は過大ではないのでしょうか？
- Q6、空港の経済効果は？
- Q7、市民は空港計画に合意しているの？
- Q8、空港島予定地に活断層が発見されましたが大丈夫？
- Q9、狭い大阪湾周辺に3つも空港造って危険じゃないの？

神戸空港計画位置図



このような問題点の多い「空港建設の是非」は、住民投票で決めてほしい…
「大事なことはみんなで決めよう」という、民主主義の基本的な要求運動
に対し、空港建設推進側は署名運動そのものへの攻撃をし、将来の神戸を真剣
に考える多くの市民の聲を聞いています。

この運動が、市民の願いそのものであることを証明するためにも、予想を上
回る市民の声を署名に結びつけることが大切です。

問題点

- ・需要予測と採算の不安…
将来空港利用者を年間420万人と予想してその概算を
割り出していますが、現在の新幹線(新神戸)利用者が
年間450万人であり、その交通の不便さ、近くに
関西空港などがあることから、計画の4分の1にも
満たないのではないかと心配されています。
- ・借金の返済は、『埋立地の売却』を見込んでいますが…
現在のポートアイランド2期工事の企業への売却が
2割しか成立しておらず、売却収入は見込めません。
そればかりか、借金の負担に加え、空港を持つ多くの
自治体が現在そうであるように、空港の維持管理の
ために赤字が増える悪循環につながる恐れが予想されます。



住民投票運動賛同者のメッセージから

この住民投票に賛同する著名人が、218人になりました。
その中に、作家の三浦綾子氏・映画監督の山田洋次氏も名を連ねておられます。
『神戸空港・住民投票の会』に寄せられたメッセージの一部を紹介します。

内橋克人氏(評論家)

「形式民主主義の日本で本当の
『地方自治』をかちとる道が、
『住民投票』の中にあると思います」

陳舜臣氏(作家)

「神戸空港の建設には絶対反対です。
神戸市が今、やるべきことは空港建設
ではありません」

白旗史朗氏(山岳写真家)

「地方空港への、各航空会社への便が
続々廃止されている現状、また環境保全
のためにも、市民でなくとも怒りを感じます。」



漫画『ナニワ金融道』の作家・青木雄二氏は、
『神戸倒産道』と題した講演の中で

「埋め立てに使う土砂は、どの山を崩して行うのか？
山地主とそれに群がる一部の者の儲けのために、
神戸の未来を借金地獄に追いやるもの」とズバリ!!



最終署名日 9月20日

目標 30万票……住民投票実現へ

被災地は今

(その1)(やっと新しい校舎で過ごせるようになった子ども達と)

東灘区の本山第二小学校は、震災で全壊した校舎が昨年('97)秋再建され、今年の春、竣工式が行われました。震災当時2年生だった子どもたちは、今年もう6年生。大きくなった子どもたち3人と、その真新しい校舎の前で、この夏久しぶりに再会しました。

私は震災があった次の年、灘区に転動したため、全壊した校舎解体から新しい校舎に移り竣工式に至る経過は、その時々に入ってくる断片的な情報をつなぎ合わせて、その間の苦労を思いはかるしかありませんでした。運動場南に、震災直後、救援の一つとして建てられたログハウスに設けられた「震災資料室」でその後の話を聞きました。

私がいた当時も、音楽会・運動会・プール水泳などの行事は、周辺の学校や施設を借りて行い、その度に高学年が、椅子や備品を運んで行事を支えていましたが、そんな学校生活が震災後3年間、昨年暮れまで続いていたのです。この子達の学年は震災2年目から元の5学級に戻ったものの、仮設校舎から旧校舎、そして新校舎へ移動する時は、全学級が入れ

ず、その度に「自分たちの納得のできる条件」を見つけて我慢した思いが伝わってきました。(例えば、新校舎に最初入る事ができたのは、5学級のうち3学級、旧校舎に残った2学級は、その代わり運動場に近い・新しい遊具を最初に使えたなど…。)笑いながら話を聞きながら、子どもたちを納得させる同僚の苦労が垣間見えた思いでした。

小学校生活の大半を不自由な環境で過ごし、今やっと卒業を前に、新しい校舎と広い運動場の中で過ごす「当たり前」の生活の有り難さを、子どもたちの話す様子の中に感じる事ができ、ほっとさせられました。

新しい体育館アリーナ・屋上プール・運動場に作られた総合遊具、その使い心地の良し悪し等、子どもの視点で生き生きと話してくれ、時間が経つのも忘れる思いでした。

しかしまだ復興途上である事実は、震災当時1110人いた子どもたちが、現在なお860人、…校区周辺の街の再建を改めて強く思ったものです。

(その2)

・(仮設住宅を訪ねて)

その日の午後、子どもたちと校区の公園内に建てられた「手水仮設住宅」を訪問しました。震災当時、お年寄りや体の不自由な方々を優先的に、30数名が入居されていました。当時小学校にできたボランティアクラブがたびたび訪問して交流を重ねたところでした。

久しぶりに何うと、ずっと入居者をお世話しておられるKさん初め懐かしい方々が迎えてくれました。

3年半経過した現在の入居者は、10数名になった事、高齢化がますます進み、直接お話をお伺いした4名の方の平均年齢85才、最高齢は92才のIさんでした。

改めてお一人お一人の震災当時から現在に至るまでを語って下さいました。お話を伺っているうちに、皆さんが私たちに元気な姿を見せて下さる訳がわかってきました。

- ・がれきの中から助けてくれた人
- ・病院で麻痺した足を一生懸命さすってくれた看護婦さん
- ・この仮設で、手足が不自由になったとき、車椅子で生活ができるよう改造を進めてくれたKさん。
- ・入院して退院するまで、待っていた仮設の人達…

それは、様々な人達との温かい出会いがあったからだったのです。

そして、何よりこの人達にとって、お互いが分かり合えるこの結びつきが心の支えになっている事を感じました。震災復興の時の流れがここでは、止まっているようにも思えました。

神戸市に現在仮設入居者が15000人・被災者の思いとは別に、「仮設解消」のスケジュールだけが先行して、その傷口をますます大きくする行政の姿勢は、震災当時とあまり変わっていないことに改めて憤りさえ感じます。

私たちが仮設を去る時、姿が見えなくなるまで手を振って見送って下さった方々…「映画のラストシーン」ではない現実の厳しさを突き付けられた場面としていつまでも脳裏に焼き付いています。

子どもたちと撮った写真を持ってまた訪問しようと思いました。

(稗田小・池見宏子)



後右端ボランティアのKさん
仮設の皆さんと子どもたち

地域に根ざし、

地域を学ぶ理科教育

市民の側から見れば、特別な立場にないかぎり、神戸に地震を起こす活断層があることなど知らないことであった。地震による被害は、地震動による家屋の損壊はもちろん、崖崩れやよう壁の崩壊なども、震源断層からの距離や地盤の地質・地形の条件によって左右されていることは明らかである。しかし、市民は自分が住んでいる土地がどのような地盤であるかは、ふだんはほとんど意識してこなかった。地盤のことを知るこの大切さについての啓発や教育がされなかった。自分の地域の地質・地形の成り立ちを、震災や土砂災害などの、災害発生の可能性を含めた正確な情報として、知る権利を保障されてこなかったともいえる。

大地の科学教育を構想するときの基本的な視点は、自分たちの住む大地のことを知る市民の権利を保障する、という立場で教育内容を構成することである。そのために小学校や中学校での理科教育が果たさなければならぬ役割は極めて大きい。

理科の他の分野(物理・化学など)と大地の学習が大きく異なる条件の一つは大地のもつ地域的な特殊性にある。他の分野では、多くの現象はどこへ行っても共通の現象であるが、地質・地形はそれぞれの地域性がある。だからこそそれぞれの地域で具体的・個別的な地形・地質を扱って教えることが期待される。

普遍性は、具体的・個別的なものを離れて存在しないのだから、具体的な地域の地形・地質を通して、普遍的認識に到達することができる。地域の個別的な現象の中に地球科学的な普遍性を見つけ、普遍性の中に地域の特殊性を読み取るという「昇ったり、降ったり」の双方向の豊かな自然認識が必要である。ここに、一般的・抽象的な自然のあつかいではなく、地域に根ざし、地域を学ぶ意義が浮かび上がってくる。

地学を専門とする教師(教師集団)の手で行われている、地域を扱った優れた教育実践は少なくない。しかし、全体の中での比率は極めてわずかである。多くの教師にとって、具体的な地域の素材を扱うことは大変困難な課題である。素材はあっても、それをどのように教材として扱うかが分からないことが多い。



近畿地方の地形(東西方向からの圧力で山地と盆地の列がくり返す)

神戸の中学校の場合でも、少数の教師が部分的に地域素材に触れることはあっても、多くの場合は一般的な知識を教えるにとどまっていた。地殻変動・隆起と沈降という一般的な知識は教えても、その典型ともいえるべき六甲山地と大阪湾の生い立ちまで言及した授業はどれほど行われていたろう。過去にたびたび地震を起こしながら高くなってきた六甲山地やその変動の傷痕とも言うべき活断層、たび重なる洪水による土砂が堆積してできた神戸の地盤などのことを扱ってきた教師はどれだけいたのだろうか。

神戸周辺地域の地形や地質をテーマにした研究や普及書(前田/1979, 1990, 菅本・前田, 1989, 藤田, 1985など)が、全国の中でもっとも多く公表されている地域の一つといってもよい神戸ですら、この現状である。兵庫県南部地震は、地域に根ざし、地域の自然を学ぶ理科教育の重要性を、改めて私たちに教えたといえるだろう。

(次号…「大地の学習」をどのようにくみたてるか。…につづく)



* 今までの被災地便り「絆」第1号から第6号をご希望の方

* 「学校防災」神戸からの提言… 震災から得た教訓をまとめた本

(神戸新聞総合出版センター・46版 262p 本体 1500円)

時を経てますますその提言が生きてくる。

これからの学校・教育のあり方を示唆した本です。是非お読み下さい。

(申し込みは全教神戸書記局 TEL078-391-7508/FAX078-391-8549)

